

[概要]

本研究では、近年空き店舗が増加し、衰退が問題となっている岐阜県大垣市の中心商店街と、中心商店街の再生事業として取り組まれている「元気ハツラツ市」を対象とし、商店経営者の意識に注目しながら、中心商店街の構造変化から衰退の現状を明らかにし、元気ハツラツ市による中心商店街の活性化について検討することを目的とした。大垣市の中心商店街は、モータリゼーションの進展や大垣駅北側の大型ショッピングセンター「アクアウォーク大垣」の開業により、中心商店街はモータリゼーションに対応できず、大型の駐車場を備える大垣駅北側のアクアウォーク大垣に顧客を奪われた。それにより、中心商店街が大垣駅周辺の核心部を中心としたコンパクトな商店街に変化してきており、核心部とその周辺部との地区間格差が拡大してきている。この地区間の格差は商店経営者の経営意欲とも関係しており、特に中心商店街の周辺部の商店経営者は商店主の高齢化、後継者がいないために経営者の世代交代が進まないことが経営意欲の低下につながっている。また、核心部と周辺部の地区間格差は、中心商店街の活性化に対する考え方にも違いを生じさせている。商店経営や再生事業に消極的な経営者の存在は新しい事業の足かせになってしまう可能性がある。このことが、大垣市における中心商店街の衰退に拍車をかけているという結果をもたらした。

キーワード：中心商店街，構造変化，中心商店街再生事業，経営者意識，大垣市